

様々な催しとホタル観賞

ホタルまつり in なかどまり

きれいなホタルの光を観賞しようと7月8日(土)、9日(日)に滝ノ沢砂防愛ランドで、第12回ほたるまつり in なかどまりが開催され、2日間で約1000人の観賞者が集まりました。

開会式では、荒関会長や来賓のあいさつに続いて、津軽鉄道(榑澤田社長がホタル列車などで集まった募金をホタル育成に役立てていただきたいと、まつり実行委員会へ寄附しました。その後、駆け付けた町イメージキャラクターらがダンスを披露し会場を盛り上げました。

さらに、来年のホタルの幼虫のために餌となるカワニナの放流体験を行い、たくさん子どもたちが参加しました。最後にオカリナ演奏や詩の朗読が披露され、心地のよい音色が響き渡りました。会場では、その日のオススメ品を用意して地元7店舗が参加。また、昨年に続いて、お茶の体験コーナーを設け、来場者をもてなしました。

主役のホタルは、湿気のある好条件で帰り道に飛び交う姿を見ることができました。ホタルを見ることができた来場者は「今年も来て良かった。光ったり消えたり、どこに飛んでいくかずっと眺めていた」と笑顔で話していました。



絵本の読みきかせ



カワニナ放流体験

津軽海峡メバルに触れて味わう

活ハマクラブが網外し体験ツアーを開催

中泊町活ハマクラブ(代表・佐藤英樹)が、この時期行われているメバルの刺し網漁の網外しを体験する網外し体験ツアーを開催しました。7月22日(土)は町外や中里地区から親子連れなど約20人が参加しました。7月27日(木)は町内の児童生徒と保護者ら12人が参加しました。

ツアーは、小泊漁協の施設である荷さばき場の見学から始まり、出荷前のメバルなどの魚介類の説明を受けました。次に製氷庫へ移動し、真冬でもなかなか味わえないマイナス10度の世界を巨大冷蔵庫に入って



漁師からコツを教してもらいました

体験しました。ここでは、箱詰めするときを使用する氷が山積みされており、参加者らは氷の山に驚いていました。

その後、参加者らにメバルの刺身やじゃっぱ汁が振る舞われ、メバル料理を堪能していました。最後は漁船の明かりに照らされてメバル網外し体験がスタート。漁師の説明を受けたあと、1尾ずつ丁寧に網から外していきました。この体験ツアーは、8月19日(土)にも予定されています。



真剣な表情で

全国大会での活躍を誓う

陸上・ソフトテニス
が町長を訪問

6月25日(日)に行われた青森県陸上競技交流大会で、中里ジュニアクラブが男子4×100mリレー(成田来河くん、鈴木龍星くん、外崎隼矢くん、鈴木力くん、荒関天空くん)で優勝し全国大会出場、女子4×100mリレー(坂田一華さん、中畑里穂さん、古川郁子さん、三上音羽さん、奈良実莉さん、小野菜美さん)が3位となり函館市で開かれる東日本交流大会出場が決まりました。

また、青森県小学生ソフトテニス選手権大会で、中泊ジュニアソフトテニスクラブの島ことのさん、工藤夢叶さんのペアが3位入賞し、全日本大会出場が決まりました。

選手たちは、7月12日(水)に濱館町長を訪問し大会結果の報告をしました。それを受けて濱館町長は「みなさん素晴らしい活躍でとても誇らしい。誰よりも努力ができる人になれるようこれからもがんばってください」と激励しました。

中里ジュニアクラブの外崎くんは「全国大会でも全力を発揮し、チームベストを更新できるようにがんばりたい」と意気込みを伝えました。



災害発生・平常時の

協力体制を確立

日本郵便株式会社と協定締結式

7月20日(水)、役場委員会室で日本郵便株式会社と町との協定締結式が行われました。この協定を締結したことで、町と郵便局が災害発生時に車両提供、避難者リスト情報の提供、郵便局ネットワークを活用した広報活動など相互に協力を要請できるようになります。

また、平常時でも、高齢者の異常を察知したときや道路損傷、水道の漏水、危険な空き家を見つけたときは連絡・通報してもらうことになっています。

町内の郵便局を代表し、中里郵便局長の宮下和人氏、五所川原郵便局長の高橋久氏と濱館町長の3人で協定書にサインし協定が締結されました。

濱館町長は「毎日町内を見回っている郵便局ネットワークの生の情報をいただき、必ずや行政サービスの向上に繋がります。災害時でも、相互に協力し、避難者に寄り添った対応ができると感じています」と話していました。

